

## 第13回 地域とのつどい



平成30年11月18日(日)に第13回目となる、地域とのつどいが開催されました。当日は200名以上のお客様にご来場いただきました。

地域の方々、ご協賛いただきました各社の方々、ボランティアで参加いただいた方々など、皆様のご協力で大盛況のうちに終わることができましたことに心より感謝いたします。

### ポム・ド・パンの理念

障害があっても、誰からも愛される人に成長できるように、丁寧に寄り添って関わります。

障害があっても、正しいことを根気よく伝えることにより、何歳になっても成長することを信じます。

障害があっても、できることが増えるように、様々なことを獲得できるように、一貫性をもって、継続して支援します。

障害があっても、その方の得意なことを、大好きなことを見つけ、これを通して、生活基盤を作ります。

# 地域とのつどい紹介

ルーヴの  
焼き菓子



## ▲▼▲ プログラム ▲▼▲

- 10:00～ セレモニー
- 10:25～ 三木先生と水上さん 音楽教室
- 11:00～ バザー&イベント
- 12:00～ 三木先生独唱
- 12:30～ 施設見学ツアー
- 13:00～ 国分寺太鼓保存会演奏



今年のおみやげ



協賛施設や食バザー、様々なお店で賑わいました。



三木先生による独唱。美しい歌声を披露していただきました。



かずら谷獅子組保存さわがに会様より太鼓、鐘の演奏による獅子舞です。



施設見学ツアー。居住棟、作業棟、毎日のウォーキングコースなど27名の方が参加されました。



讃岐国分寺太鼓保存会様による大迫力の演奏。



# 地域とのつながり

9/13  
(木)



## 三谷地区コミュニティ調印式

2018年9月18日 非常災害時の避難所使用に関する申し合わせ事項確認書調印式に出席しました。現在の日本は災害が相次いでいます。三谷地区においても、同地区の一部企業や福祉施設が、いざという時に協力体制を連携して行う取り組みに応じました。災害は起きないことが一番ですが、実際に起きた時には慌てず、確実に避難できるよう心がけていきたいと思えます。

主任生活支援員 和田 真由美

10/3  
(水)



## 災害救援自動販売機設置

風見の家入口門扉前に、伊藤園さんより災害救援自動販売機を設置しました。普段は通常の自動販売機として使用できますが、災害等の停電時でも稼働し、緊急時は飲料が無料提供になります。売上は全て赤い羽根共同募金に送られます。

事務主任 松原 健太



10/13  
(土)



## 三谷八幡宮秋季例大祭 獅子舞

毎年この時期恒例の秋祭りの獅子舞がウインドヒルにきました。利用者・保護者の方をはじめ職員の皆さんも獅子舞の勇壮な舞と子ども達の可愛い踊りを目の色を変えて見っていました。秋の訪れを感じる時間になりました。来年も是非お待ちしています。

主任作業支援員 松尾 能之

10/13・14  
(土) (日)



## 高松大学・高松短期大学文化祭

2日間、利用者3名と職員2名で高松大学の文化祭にウインドヒルのブースを出店しました。高松大学からは毎年実習に学生が来てくれています。温かく迎えていただき、エコポットや雑巾、竹炭等を販売し、一緒に楽しい時間が過ごせました。

主任生活支援員 鎌田 泰明

11/4  
(日)



## 三谷地区文化祭

平成30年11月2、3、4日と三谷コミュニティにて三谷地区文化祭が開催されました。ウインドヒルからも芸能発表の部で利用者と保護者の方、職員が参加し、練習してきた「ヤングマン」を披露しました。会場ではステージ上で緊張しましたが、元気いっぱい歌とダンスが出来ました。年々、声をかけて下さる地域の方も増え「自閉症」への理解を深め、広げていくと共に、多くの方との繋がりを実感しました。

主任生活支援員 村川 文生

# ウインドヒル、風見の家 主な行事



## クリスマス会

12/18  
(火)



ユニット発表会



ルーヴのクリスマスケーキ

クリスマス会に参加して…

おいしいルーヴさんのクリスマスケーキを利用者・職員・関係者とともにいただきながら、賑やかなクリスマス会でした。ユニット発表では、各ユニットで支援員さんが余暇を利用し、歌に踊りにといろいろ趣向を凝らした出し物で盛り上げてくださりました。練習の成果もあり、保護者は大笑いしたり心配そうに見ている姿もみられました。

保護者 石井 三世



保護者会よりたくさんのクリスマスプレゼントをいただきました。大切にに使わせていただきます。

ありがとうございました



## 高知県立のいち動物園へ遠足

9/21  
(土)



動物園に行くのは、娘が小さい頃に行ったきりで久しぶりでした。私が「動物がいるよ」と声を掛けて指さすとチラッと横目で見たり、どうぶつ科学館ではレプリカの恐竜の声を怖がったりしましたが、落ち着いて見てまわる事が出来ました。

美味しいランチを食べ、動物を見て童心に帰り、バスの中ではお母さん方の色々なお話が聞けて、とても楽しいバス旅行でした。さまざまな経験が成長をささえています。

保護者 土手添 美幸



## 福祉協会卓球大会

12/14  
(金)



香川県知的障害者福祉協会主催の施設交流卓球大会となり初めての開催となりました。スポーツ委員による審判を実施し、ゲームを楽しめる大会としての第1回目。課題もありましたが和やかな雰囲気、みんなの活躍の場が増えたような気がしました。

生活支援員 松原 美恵



## インフルエンザ予防接種

11/20  
(火)

注射をすることに抵抗のあった利用者の方も、毎年のことなのでずいぶん慣れ、スムーズに終わることができました。今シーズンもインフルエンザ「ゼロ」を目指します。手洗いうがいを徹底していきたいと思います。

主任看護師 金川 恵子



## 保護者会 日帰り遠足

11/9  
(金)

親子遠足に参加して…

利用者達は景色を楽しみ、親達はおしゃべりに花を咲かせているうちにビール工場に到着。工場見学の次は、お楽しみのジギスカン！試飲のビール片手の息子を横目にジュースで料理を堪能しました。次に行った博物館では、恐竜やマンモスの模型に驚いたり、血管年齢に一喜一憂したり、楽しいひと時を過ごすことができました。

保護者 田中 光代



## 《ウォーキング坂道整備(研修棟前)》10/25(木)完成

障害者支援施設ウインドヒル敷地上段の研修棟から、敷地下段の第二作業棟間の約30mを結ぶ階段(擬木・ステンレス製手摺)の改修工事が10月下旬に完成しました。これまでの階段は、夕方のウォーキング時に上段から下段へ降りるルートとして、まくら木で簡易に作ったもので、歩幅が一定ではなく、坂の途中で曲がっており、使い勝手の良いものではありませんでした。整備後の階段は、ステンレス製の手摺が2列設置されているので、複数の人が同時に利用でき、居住棟と作業棟間の移動がスムーズに行えるようになりました。

事務長 松原 廣



## 《自閉症協会創立50周年行事に参加(ホテルオークラ東京)》11/24(土)

全国の日本自閉症協会の関係者が一堂に会し、創立50周年の歴史を振り返るとともに、今後一層の活動の充実、発展に向け、思いを新たにする機会として記念式典が開催されました。常陸宮殿下のご臨席をいただき、「日本自閉症協会50年の歩み」を映像で紹介。懐かしさと先人の先輩保護者さんのご苦勞を改めて感じました。

1968年(昭和43年)親の会が創立され、5年後、1973年に香川県も加わり、加盟団体が30となり、全国各地域で親の会設立に弾みがついてきました。

歴史が流れ、2007年の国連総会において、毎年4月2日を「世界自閉症啓発デー」とすることが決議され、全世界の人々に自閉症を理解してもらう取り組みが行われるまでになりました。このような方向性が、自閉症をはじめとする発達障害について知っていただくこと、そして、理解していただくことによって、誰もが幸せに暮らすことができる社会の実現に繋がっています。

過去・現在・そして今後の未来に向かって、発足当時の『願い』は受け継がれ発展し、次の世代へと引き継がれます。コツコツと、継続した活動を続けていきたいと思っています。

香川県自閉症協会 理事 松原 正子

# 職員研修

## ●障害者と薬物 10/24 (水)

講師：三光病院 星越 活彦 医師

主に、自閉症と薬物の関係に対してのお話が印象的でした。薬についての新しい知識と服薬の効果、副作用など、興味深いものでした。薬には指標が無く、薬が利用者に適切かどうかは行動の変化に意識しながら確認すること。些細な行動の変化を見落とすことなく記録する事が大切であると学びました。職員の事前質問にも丁寧に答えてくださった有意義な研修でした。

生活支援員 栗原 昌稔



## ●危機管理研修 11/26 (月)

講師：アルソック職員様

危機管理研修では、実践を行い、手順を丁寧に確認しながらの研修でした。実践を行う中で、職員同士の連携が大切だと感じました。

- ①自分だけでどうにかせず、協力し合うこと
- ②シミュレーションを行い、もしもの時に備えること

今回の研修で学んだことを活かし、現場でも職員同士連携をとって、できる事を常にし、もしもの時に対処できるよう努めて行きたいと思えます。

生活支援員 田中 美穂



## ●感染症予防研修 12/3 (月)

講師：金川 看護師

集団で生活している場で最も気を付ける事は感染症です。今回の研修では過去にあった実例を通して、嘔吐物の処理方法を研修しました。その原則は、嘔吐物の中には様々な細菌がある可能性を想定する事、細菌が広がっていかないようその場で断ち切ってしまう事です。常に危機意識を持って、いざという時に正しく行動できるように心掛けたいです。

生活支援員 吉原 浩二



## ●自閉症療育～行動障害の理解とその対応～12/19 (水)

講師：臨床心理士 鏡 直子先生

鏡先生の研修を受けて実感した事は、太田ステージによる評価（基準）を踏まえて認知発達理解がとても大切なこと、できないことを無理に進めていくことではなく、工夫して支援していくことが利用者の成長に繋がるのだと再確認しました。

支援の中にはすぐに結果が出ないものも多く、でも、「いつか芽が出て花が咲く」という言葉を思い出し忘れずに支援していけるようになりたいと思いました。

支援の中で発見がいくつもあり、その中で利用者一人ひとりが個性を活かして成長に繋がって欲しいと思いました。鏡先生の研修会は毎年実施され、その都度原点に戻り、心新たな支援につながります。

グループワークでは皆の意見交換、話し合いの中で、新しい発見ができ今後の療育や支援に繋がり利用者と共に自分自身も成長し活かしたいと思っています。研修に参加させて頂きありがとうございました。

生活支援員 松田 仁美



## 県外出張

- ・平成 30 年度 自閉症セミナー 東京
- ・九州・山口・四国自閉症施設協議会 鹿児島
- ・日本自閉症協会全国大会 広島大会
- ・全国職員研究大会 山口
- ・全日本自閉症支援者協会研究大会 三重大会



# ウインドヒルへ研修・見学に来られました。 来られた方の感想を一部ご紹介します。



## フレンドまつ様 施設見学

具体的な支援内容についていろいろとお話を伺い、また、施設の活動の様子を拝見することで障害者支援に関わる私共にとって大変有意義なものとなりました。

事前の質疑に対して（支援に関わるうえでの支援方法や工夫、こだわりの軽減方法、「椅子に座る待つ」行動をとることの支援方法、他害時、自傷時の対応、強度行動障害者への対応、日中活動内容等々）一つ一つ丁寧にご回答を頂き、たいへん実りある研修になりました。

## 高松市保育士研修

- 一貫性のある援助を継続して行うことが、将来を見据えた支援であり、そのことが豊かな生活を送る、ということへと繋がるのだと感じた。
- できないだろう、と決めつけるのではなく、今何が足りないのか考えながら、課題を提供し、経験することを繰り返す中で達成感を感じる事が大切であると学んだ。
- 資料だけでは、中々理解が難しいことも現場を見させていただき事で理解ができたり、感じたりすることができた。
- 利用者一人一人に寄り添い得意なことを伸ばしてあげたいという思いが、施設長の話や職員の人達の関わりを見ていて伝わってきた。
- 「ピンチはチャンス」という言葉が心に残りました。困ったことがあっても、それを糸口にして課題を見つけてクリアし、幸せにつなげていく作業を何度も繰り返して一から積み重ねてきた過程が伺えました。

## こだま学園保護者様 施設見学

- 施設と聞くとあんまり良いイメージがなかった。ここは伸びやかなところで心も人間としても豊かになると思った。部屋も広くて清潔。
- 職員さんが気長に付き合ってくれていたり、配慮や努力を感じた。地域交流棟や作業場にあった手作りの棒やひらがな表などもいいなと思った。
- みんな昔は大変だったんだろうが、とても落ち着いていて、すごいと思った。小さいうちからきちんとしないといけないなと思った。
- 規律や約束事がきちんとあって、それを守っていた。私たちみたいな初めての人がぞろぞろと行っても動じることなく作業もして、落ち着いていると思った。



思いやりネットワーク事業（10/18・11/27・12/25・1/16実施）

## 発達障害相談会、継続して実施しています。

こだま学園に通園している、就学前までの、自閉症、発達障害、さまざまな遅れを持っている子供たちのご両親を対象に相談活動を実施している。

困り感を共有し、先輩ママからのメッセージを伝えるとともに、元気を充電できる機会を提供。ウインドヒル松原施設長と、自閉症協会の会員が月に1回、関わり、療育に困難をきたしている方からの相談を受け付け、個別相談や、具体的関わり、支援方法について援助を実施している。

# 社会福祉法人ポム・ド・パン後援会会員

敬称略・順不同

●平成30年度団体会員 平成30年9月1日～平成31年1月14日

(有)筒井左官工業所

●平成30年度個人会員 平成30年9月1日～平成31年1月14日

保本ふさ枝 白坂 友彦 佐藤 明美 萩野 繁子 築山 浩二 大門 亘 三好美千代 横田 忠

平成30年9月1日～平成31年1月14日現在以上の方々に継続及び新規にご入会頂きました。

平成31年1月15日以降にご入会の方々のお名前は次回の会報に掲載させていただきます。

ご理解、ご支援本当にありがとうございました。

## 社会福祉法人ポム・ド・パン後援会のご案内

社会福祉法人ポム・ド・パン後援会は、当法人が運営する障害者支援施設「ウインドヒル」とグループホーム「風見の家」をサポートしています。今後長期にわたり、利用者一人ひとりを大切にしたい理想的な療育を行い、施設の整備を継続的に発展させてゆくには、より多くの方々のご支援を必要としております。

何卒、私達の趣旨をご理解いただき「社会福祉法人ポム・ド・パン後援会」にご入会下さいますようお願い申し上げます。

[年会費] 個人会員 一口3,000円 団体会員 一口10,000円

[ご入金方法] 郵便振替 口座番号 01690-3-74305 口座名称 社会福祉法人ポム・ド・パン後援会

あたたかいご支援、本当にありがとうございました

## 新しい仲間が増えました!!

地元、通谷西からウインドヒルヘヤギの「クララちゃん」がやってきました。施設の斜面を軽快に歩き、雑草を食べてくれることで環境整備に一役かってくれています。日中は生活棟と作業棟の間の斜面にいますので、見かけたら名前を呼んでみてください。しっぽを振って「メェ～」と返事をしてくれます。

クララです。



社会福祉法人ポム・ド・パンのホームページです。当法人からのお知らせやウインドヒルでの取り組みなどを随時更新していますので、是非ご覧ください。スマートフォンでは、右のQRコードから読み取れます。  
アドレス：<http://www.pomme-de-pin.or.jp/>



社会福祉法人ポム・ド・パン

## 編集後記

年が明け、早いものでもう1ヶ月が経ち、平成31年初の会報発行となりました。

お正月の長い休みが明け、利用者さんが施設に帰ってくると一気に施設が活気づき、「さあ、今年も一年頑張るぞ!」という気持ちになります。会報担当者として、より良い会報作成を目指していきたいと思っております。本年もよろしくお願ひ致します。



松ほっくりのポムです。



松ほっくりのパンです。